

滝野の歴史

▽開拓時代

滝野地区は、明治初期に札幌の開拓のため、木材生産の場となり、集落が形成されました。

明治23年ころに木材の生産が停止されると、その後10年近く無人の地となりましたが、明治32年以降は農地として開拓され、大正9年には水田稲作を試行。これ以来滝野地区の集落形成が本格的に始まりました。

しかし、昭和40年代の高度

成長期になると人口が流出し、昭和46年には滝野小学校が廃校となりました。

▽野外教育時代

昭和46年、札幌市は廃校となった滝野小学校の校舎を活用し、滝野自然学園を開設しました。小・中学生の宿泊学習に利用できる施設で、ハイキングや登山、オリエンテーリング、スキー学習など野外活動に利用されました。その後キャンプ場やロッジなども設置され、「青少年自然の村」として一体的利用が始まりました。

▽国営滝野すずらん

昭和50年、北海道開発局は国営公園の適地選定を開始しました。都市部に隣接しながら広大な自然があり、冬も楽しめる施設という視点から、昭和53年に滝野を適地と決定。昭和58年7月に溪流ゾーンと保全ゾーンの一部分が完成し、全国で5番目の国営公園として開園しました。その後順次利用区域を拡大し、現在では4つのゾーンが開園。平成22年までに6つのゾーンすべての開園を目指しています。

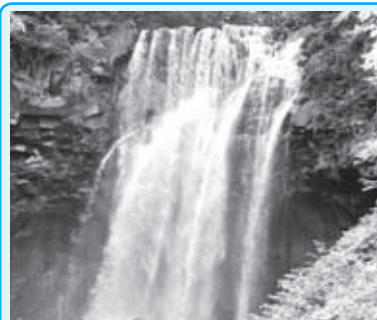
滝野のあゆみ

- 明治12年 官営製材所設置
- 昭和46年 札幌市が約340haの土地を取得、「青少年自然の村」を設置
- 53年 1月 北海道開発局が滝野公園の計画決定
- 4月 滝野公園事業所が発足
- 57年 レストラン・売店など有料施設の整備を開始
- 58年 7月 溪流ゾーン、保全ゾーンの一部分がオープン
- 59年 7月 溪流ゾーン下流部、保全ゾーンの残りがオープン
- 62年 1月 炊事遠足広場と歩くスキーコースがオープン
- 平成元年 4月 中央口駐車場がオープン。駐車場の有料化
- 9月 青少年山の家および周辺施設がオープン
- 4年 7月 総入園者数が500万人を突破
- 6年 5月 公園内に公園事務所を開設
- 6月 オートリゾート滝野がオープン
- 9年 4月 つどいの森、東口駐車場がオープン
- 10年 1月 歩くスキー新コースがオープン
- 11年 12月 ファミリーゲレンデがオープン
- 12年 7月 カントリーガーデン、こどもの谷の一部がオープン
- 14年 7月 こどもの谷の残りがオープン
- 16年 7月 森のすみかがオープン

見どころ・施設

溪流ゾーン

アシリベツの滝や国内で一番広い炊事遠足広場があります。入園料を徴収しない無料ゾーンです。



▲「日本の滝100選」にも選ばれました（アシリベツの滝）

宿泊ゾーン

小・中学生の宿泊研修で多く利用される「青少年山の家」（次ページ参照）や、キャンピングカーでも利用できる本格的なオートキャンプ場「オートリゾート滝野」があります。



▲ログハウス風のキャビンサイトもあります（オートリゾート滝野）

中心ゾーン

広大な花園「カントリーガーデン」や、ビックリボールやフワフワエッグなどの遊具がいっぱいの「こどもの谷」があります。



▲北海道の田園風景のような眺め（カントリーガーデン）



▲子どもに人気のある遊具がいっぱい！（こどもの谷）